

高齢者の**元気**が街を変える

三重県松阪市・松阪まちづくりセンター





大正浪漫一座が、三重県松阪市にある養護老人ホーム延寿院で公演するのは、二回目。ほぼ一年ぶりにここを訪れた。演目は「美しい日本の四季」。六十人ほどのお年寄りを前に、「春よ来い」「早春賦」「茶つみ」「村祭」「荒城の月」「紅葉」「冬景色」といった懐かしい唱歌、童謡三十曲あまりが歌われた。二十人ほどの座員があわただしく、衣装を着替え、振り付けをし、入れ替わり立ち代りステージに立った。手づくりのみこしが繰り返され寸劇も披露された。かつて一度は聞いたことのある歌にお年寄りたちの顔も自然とほころび、手拍子をとったり、口ずさんだりしている。

ステージに立つ浪漫一座の面々も六十歳以上の人たち。昨年までこの延寿院に勤務していた人も参加している。一座は、松阪まちづくりセンターが、会員や賛助会員などと呼びかけ、「高齢者による、高齢者のための元気づくり集団」として立ち上げた。昨年四月に旗揚げし、以来、月一回ほどのペースで、老人保健施設や小学校などに出かけている。演目としては、ほかに「教科書から消えた名曲を歌い継ぐ」「歌は世につれ大正浪漫」などで大正時代の歌を中心に構成している。

高齢者が健康で、生きがいを持ち、さらにその能力を最大限生かし、歴史と文化のある松阪の活性化に取り組んでいこう。こんな想





いから発足したのが松阪まちづくりセンター。その活動拠点として、市民と観光客の交流の場として設立したのが、「まちの駅・寸庵」。平成十二年十一月のこと。三井家発祥の地で、古い町並みの面影が残り、観光コースともなっている市内本町、その一角にある、明治期に建てられ、昭和初期まで呉服商が営まれていたが、空き家となっていた町家を改装しオープンした。「寸庵」はその建物の明治期の当主の号から名づけられた。一階は、無料休憩所、松阪の民芸品、障害者施設の製品などを並べるコーナーが設けられ、メンバーが交代でつめ、トイレの提供やお茶の接待、さらには観光案内を行なっている。開設されてから五年目に入ったが、年間四、五千人がここを訪れているという。二階は市民のためのギャラリーとして利用されるとともに、松阪の歴史やゆかりの深い人物の紹介などをする松阪市民塾の場としても利用されている。

さらにこだわったのが大正時代。呉服商が主に大正時代に営業していたこと、大正デモクラシーの言葉に象徴されるように日本の新しい流れを創った時代であったことから、大正浪漫を象徴する竹久夢二展を開いたり、さらに前述の大正浪漫一座のように「大正」をモチーフにした活動を展開している。

センターの会員は元教師や公務員など三十





名ほどだが、平均年齢は七十歳を超えるという。そして、会員とともに会の運営で大きな力を発揮するのが賛助会員。およそ三百人の人たちが、一口千円の資金を提供し、経済的な基盤を作っている。

センターの代表で、松坂大学名誉教授阪上順夫さんは、センター立ち上げのねらいを次のように語る。「少子高齢化、人口減少、財政難にいかに対処していくかは、二一世紀の日本にとつての大きな課題。これらの影響は地方都市ほど大きい。そのためには、行政だけでなく市民自身が自助の精神を持つことが必要。なかでも、元気老人のパワー活用で地域の活性化を」と。

今後、団塊の世代が高齢者の仲間入りし、高齢者は急激に増えていく。この人たちがここ松阪のように、自らも健康で、さらに老人パワーで街を変えていければ。

■連絡先 〒五一五・〇〇八一

三重県松阪市本町二二一七

まちの駅松阪「寸庵」内

TEL/FAX 〇五九八・二二一・一三〇六

